

週刊 リスクマネー経済新聞

先週の振り返り

リスクマネジメント愛媛

◆ 先週の株式&為替相場 (前週末比)

日経平均：36,581円 (+190円) / ドル円：140.70円 / NYダウ：41,393.78ドル (+1,048ドル)

◆ 先週の日経平均株価は小幅上昇となりました。前週からの下落の流れにより11日まで7日続落となりましたが、12日には米国株の上昇を受け今年3番目の上げ幅を記録し、週間ではプラスとなりました。ただ日銀の追加利上げリスクを前に円高が進んでおり、上値は重い状況と言えます。

⇒ 今週は17~18日の米FOMCと19~20日の日銀金融政策決定会合に注目が集まります。米国では利下げ幅0.25%が濃厚と見られているものの、もし0.5%の利下げに踏み切った場合は大きく円高に振れるリスクがあります。日銀に関しては現状維持と見られています。

【資金の流れ】 輸出関連株 ⇒ ディフェンシブ株 米ドル ⇒ 円

注目トピック

◆ 予想よりも健闘したハリス氏！？ …米大統領選を占うTV討論会の内容

ABCニュース主催の米国大統領候補TV討論会が、米国時間9月10日にペンシルベニア州で行われました。民主党のハリス氏、共和党のトランプ氏は互いに譲らず、激しい論戦を繰り広げましたが、その内容とは。

【失点の無かったハリス氏…】

事前予想では討論やインタビュー経験が少ないハリス氏のディベート力が不安視されていましたが、実際はトランプ氏に引けを取らない強い姿勢を見せつけ、予想外に健闘したと言えます。ハリス氏は移民2世、非白人、中間層出身という自身のバックグラウンドを政策と重ねる形でアピール。経済政策では、低所得者向け税控除、低所得者向け住宅購入支援、物価押し下げなど中間所得層支援と物価高対策を柱とする独自の経済政策を改めて強調しました。多くの論点について淀みなく発言し、論戦を有利に進めたと言われます。

【失言も見られたトランプ氏…】

一方トランプ氏は「移民がペットの犬を食べている」や「移民流入のせいで、米国内で重大な犯罪率が上昇している」などの発言が、事実に基づかないとして失点とされています。移民問題をクローズアップする狙いの発言が裏目に出たと言えます。大統領選に向けては通常、2~3回のTV討論会が実施されることが多いですが、トランプ氏は次回討論会を拒否しており、今回は最初で最後となる可能性も出てきています。民間の世論調査ではハリス氏優勢との見方が強まりましたが決定的ではなく、今後も動向には要注目です。

今週の話題

◆ 注目の自民党総裁選と株式市場への影響

【解説】

27日の投開票日まで2週間を切った自民党総裁選。過去最多となる9人が立候補し、まさに混戦の様相です。各候補が掲げる経済政策や早期の解散総選挙の有無は金融市場への影響もかなり大きいいため、注視が必要です。

【ポイント】

岸田政権の支持率が低かった分、新政権へのさらなる政策期待から選挙後は株価上昇が見込みやすい状況となります。内閣支持率と株価は正の相関があるとされるため支持を得られるリーダーの誕生に期待したい所です。

【今後の影響】

早ければ今年10~11月にも解散総選挙が見込まれます。海外投資家の日本買いが再開するとの見方から、首相候補者の公約に応じた関連株は早くも活発化しています。しばらくは政治動向が重要なテーマとなりそうです。